



工学部広報



特集「第59回北桜祭」

…1-4p

『Link of Heart and Smile～笑顔と心のつながり～』と
『ロバス』をテーマに第59回北桜祭のさまざまな行事を紹介します。

教育の新しい取り組み

…5-6p

- ① リメディアル教育による基礎力の向上をめざして
- ② ロバス工学で、未来を担うロバスエンジニアを育てる

課外活動応援団

…7-10p

サークルや課外活動で頑張っている学生たちを紹介します。

スキルアップリポート

…11-12p

工学部のスキルアッププログラムを体験した学生たちを紹介します。

サクセス最前線

…13-16p

早めのスタートで、自分の夢をつかもう！
厳しい就職状況を乗り切ろう！就活6つのポイント！！
夢をつかんだ先輩たちの声
社会で活躍する女性たちの声

ロバスな工学部 Vol.10

…17-18p

「環境が人を育てる」

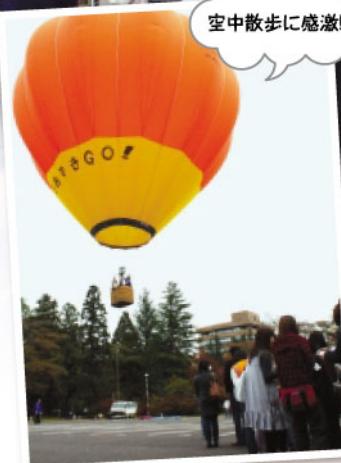
工学部だより

…19p

特集「第59回北桜祭」

～笑顔と心のつながり～

「Link of Heart and Smile」



地球も笑顔になる風船

あいにくの曇り空の下、肌寒さを感じながら始まった、第59回北桜祭の開祭式。出村克宣工学部長から「青春の1ページを飾る、年に一度の北桜祭、学生のエネルギーを感じ取ってください。」という温かい言葉をいただき、徐々に学生たちのエンジンが掛かり始めました。吹奏楽部の演奏による校歌合唱のあと、いよいよ開祭式のトリを飾るエコ風船が登場。この風船は土に還る素材でできたもので、口ハスな工学部らしい演出の一つです。いっせいに空高く舞い上がった風船。それを見上げるみんなの顔は、いつのまにか“笑顔”になっていました。きっと、地球も笑顔で、風船のゆくえを見守っていたことでしょう。

スタンプの数だけ笑顔になれる

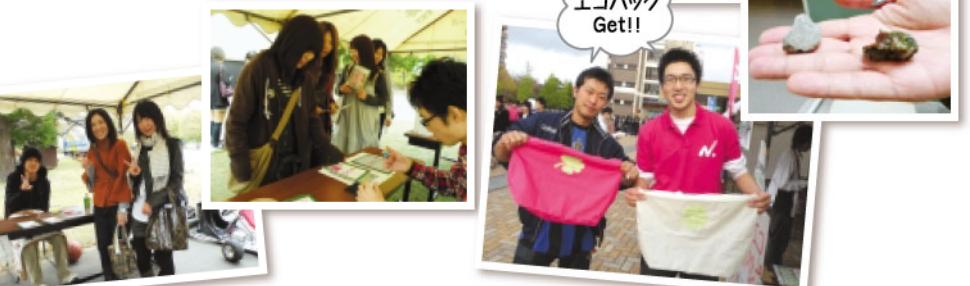
今年のスタンプラリーは例年とは少し違っていました。題して『エコスタンプラリー』。工学部の推進する口ハスの研究を紹介しながら、工学の魅力に触れてもらおうという企画です。

1つ目のキーワードは“口”。今年1月に完成した、自然の再生可能エネルギーだけを使って、消費電力を賄うという大型の実験装置『口ハスの家』です。テレビの報道やインターネットなどでも取り上げられていることから、もともと興味があったという一般の方も多く、「実際に屋外と家の中の温度差を実感できました。」と感動した様子でした。実は、初めて入ったという工学部学生もたくさんいました。物質化学工学科3年生の2人も、「この家ができるて、口ハスを知ったという感じです。」「全部電力を賄っていてすごいなと思いました。」と感激していました。

2つ目のキーワードは“ハ”。軽いのに硬い石。なぜ?と驚いた人も多いはず。正体は、『発泡スチロールを使った土木材料』。廃棄物をリサイクルするために、焼却、破碎、圧縮などの方法でその容量を減少させた減容EPS(発泡スチロール)です。碎石のコンクリートと比べても、単位密度あたりの強度が高いことから、建設材料として期待されています。

3つ目のキーワードは“ス”。排気ガスを出さないクリーンなエネルギーができる『水素を使った燃料電池』です。自動車などの実用化に向けて研究が進められています。研究用の燃料電池カートの展示があり、子どもたちにも大人気でした。そして、3つのスタンプを集めると『口ハス』の文字が完成! 口ハスな人には北桜祭オリジナルのエコバッグが進呈され、みんな笑顔になっていました。

このように工学部では、環境保全や持続可能な社会に役立つさまざまな口ハスの研究が進んでいます。普段、一般の方には紹介できない工学部の研究に触れていただいたことで、口ハスへの関心も高まったことでしょう。



家庭でもできる簡単ロハス

北桜祭の企画の中で、新しい試みの一つ「エコキャンドル作り」。これに使われたのが、あらかじめ北桜祭実行委員会から持ち寄った廃油と工学部の学生食堂の廃油です。廃油を排水として流すことは、環境負荷になります。そこで工学部では、廃油を回収処理するだけでなく、実際に廃油を使って、石油などの化石燃料に代わる燃料の開発に取り組んでいます。環境のためにも、研究のためにもなる廃油の再利用。「エコキャンドル作り」も、スローライフな心の癒しになるだけでなく、環境への配慮にもつながるということで、企画されました。作り方も簡単です。温めた廃油に市販の廃油凝固剤を混せて容器に移します。バニラなどのエッセンスを加えてすばやくかき混ぜ、キャンドルの芯となるタコ糸を垂らして15分くらい冷ませば出来上がり。女性を中心に人気高く、50個用意されたキャンドルはあつという間になくなるほどの盛況でした。その日の夜は、エコキャンドルが心も口ハスにしてくれたことでしょう。



笑顔の向こうに、ロハスがある

さまざまなサークルの作品や活動内容を展示了した教室の中で、美術部に第59回北桜祭ポスターの応募作品が飾られていました。制作者は建築学科3年の大須賀朝陽さん。100年持続する建物を造りたいと思い工学部に入学したそうです。惜しくも佳作になったその作品には、深い意味が込められていました。『Smile』は日本語で微笑み。微笑んだ男の子が手に持っているのは、クローバーでつながったハートのリング。そして、クローバーは…。思いだしてみましょう。クローバーの葉のカタチは“ハート形”。人間が思い描いた心のカタチであるハート形が、自然の中にも存在していました。『Link of Heart and Smile』～笑顔と心のつながり～…それは自然とのつながりでもあります。

大須賀さんは、ロハスについて、こう考えていました。「普段の生活の中で、環境のために水を節約しようなんて思いませんよね。もったいないから節約する。そんな当たり前のことを少しづつ積み重ねれば、エコにつながるのだと思います。」最初は、「ロハスの向こうに、笑顔がある」のだと思っていました。そうではなく、「笑顔の向こうに、ロハスがある」のが本当のロハスなのかもしれません。無理をし過ぎると続かない。廃油を有効利用したエコキャンドルで、ちょっといい夜を過ごせて心も癒されたように、無理にではなく愉しくできるエコが、ロハスになるのです。

工学部学生のエネルギーは、環境を破壊しないし、何度でも生成できるエネルギー。もっともっと笑顔になれるよう、そのエネルギーを有効活用してください。

この場をお借りしまして、来場者の皆様、北桜祭開催にあたり多大なるご尽力をいただきました関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、北桜祭で見せたみんなの笑顔がずっと続きますように…心から願っています。



北桜祭はボクらの甲子園!

第59回北桜祭で、活躍した団体をクローズアップ!! その活躍ぶりを紹介します。



情報研究会

情報研究会は、北桜祭の様子をストリーミング配信でライブ中継。70号館と50周年記念館(ハットNE)に設置された電子掲示板にも映像を配信し、リアルタイムで北桜祭の熱気を伝えました。また展示室では、自作のゲームを紹介。子どもたちもコンピュータの面白さを体験できました。



当日の様子をオンデマンドで配信しています。ぜひご覧ください。

北桜祭オンデマンド放送 http://hokusai-live.ce.nihon-u.ac.jp/ondemand_day1.html



吹奏楽部

インフルエンザの影響で参加できなかつた国際関係学部の分まで、工学部吹奏楽部と日大東北高校吹奏楽部が力を合わせて演奏。アンコールの「エルクンパンチャロ」では、観客を完全に魅了していました。高校生も「大学生と演奏できとても刺激になりました！」と貴重な体験に感激していました。



北桜祭実行委員会

急きよ企画変更をよがなくされた状況にもしっかりと対処し、来場者を大いに楽しませてくれました。徹底したゴミ分別で会場をきれいにするだけでなく、ペットボトルのキャップを回収するなど環境にも配慮し、工学部学生のお手本となる活動は高く評価されます。来年も頑張ってください。



リメディアル教育による基礎力の向上をめざして

» 教育の新しい取り組み①

昨今、学生の学習履歴が多様化しています。工学を学ぶにあたり基礎学力を充実させることが必要になってきています。そこで本学部では、今年度より1年次生を対象としたリメディアル教育に力を入れ、学生のフォローアップに努めています。その取り組み内容について、ご紹介いたします。

基礎演習で学力向上

工学を学ぶための基本として大切な数学、英語、物理学及び化学。これらの基礎的な学力を身につけるために、前学期はそれぞれの基礎演習を導入しました。クラス編成は、入学時に行われたプレースメントテストの結果と高校での履修調査をもとに実行しました。実際に、演習形式で問題を解きながら基礎力を高めるとともに、さらに詳しい解説を講義することで理解を深めます。この演習はそれぞれの基礎科目と連動しているので、通常の授業で理解できなかった内容の復習になります。こうした徹底的な基礎演習を行った結果、前学期は確実に学生の学力が向上し、成果をあげることができます。

学習支援センターで個別学習に対応

後学期からは、70号館2階の学習支援センター内に、学生の質問に直接答えることができるシステムを立ち上げ、個別にケアを行っています。曜日によって科目を分け、数学、英語、物理学及び化学の教員を配置し対応しています。訪れた学生は気軽に質問できるだけでなく、関連するさまざまな内容についても詳細な説明を受けることができるので、幅広い知識として吸収され、確実なステップアップにつながっています。また、仲間と一緒に切磋琢磨しながら、学ぶ楽しさを実感できるのも効果をあげる要因となっています。

「マンツーマンで教えてもらえるので、苦手な化学も理解できました。」「何でも質問できるので、これからもどんどん利用したいと思います。」「こういう場所があれば、授業でわからないことがあっても、聞きに行けるから助かります。」など、利用した学生には満足いく成果が得られているようです。

利用にあたって不明な点があれば教務課窓口まで。



英語学習ソフトを使って英語力強化を図る

今年度から、LAN接続をしたコンピュータの画面上で自習できる英語学習ソフトを導入しました。自分のレベルに合わせて学習したい項目を選べ、ゲーム感覚で楽しみながら学べるのが特徴です。音声による発音の練習もでき、TOEICに対応した模擬試験などもあり、初級から上級まで幅広い学習環境が整っています。さらに、このソフトを使って持続的に学習する習慣を身につけることを目的に、英語研究室主催による『英単語コンテスト』も行いました。英語を得意としない学生も数多く参加し、英語への関心と英語力を高めることができました。(11頁参照)

すべてにおいて、基礎は大事な土壤となります。肥沃な基礎があってこそ、高度な工学技術も育つもの。また、学生一人ひとりの可能性の芽を伸ばすためには、いかにモチベーションをアップさせるかが重要な鍵を握っています。一方通行の教育ではなく、学生の目線に立ち、目標を持って勉学に励むことができるよう、教職員が連携を図りながら教学活動に従事していきます。



ロハス工学で、未来を担う ロハスエンジニアを育てる

» 教育の新しい取り組み②

*LOHAS:Lifestyles of Health and Sustainability(健康を重視し、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル)

ロハス工学の原点を知る

ロハスを実現するためには、エンジニアは何をすべきか—。『ロハス工学Ⅰ』では、学生自身が考えることから始まりました。開講された10月1日(木)の第1回目は、機械工学科の加藤麻司教授の講義でした。エネルギー資源や鉱物資源の枯渇、環境破壊、食料危機などさまざまな問題の背景について講義しました。それらが利益を第一にした大量生産・大量消費に起因しており、人の生き方、即ちライフスタイルを変えていくことが必要であると示しました。さらに、『ものづくり』に携わる技術者の意識変革と、新たな「ものづくり」の思想の必要性が示されました。『ロハス工学Ⅰ』は学生がこれらのこと理解し、地球規模の問題の解決に貢献できるための知識を講義します。



企業見学会で貴重な体験を

10月5日(月)には、講義の一環として企業見学会を行いました。福島県内及び栃木県那須町など、さまざまな分野で活躍する7つの企業にご協力をいただき、実際の「ものづくり」の現場を見学しました。企業の方の生の声を聞き、生産活動の実態を体感しました。

今回の見学場所の一つである『(株)非電化工房』は、平成21年度より客員教授としてご講義いただいている、発明家としても名高い藤村靖之教授が経営するアトリエです。非電化工房では、非電化製品を通して、電気がなくても快適で幸せな生活を実現し、自然と共生する生き方を追求しています。参加した学生たちは、さまざまな非電化製品やその仕組みについて知ることができ、貴重な体験になりました。



あらゆる角度からロハス工学を考える

『ロハス工学Ⅰ』の授業では、機械工学のみならず、さまざまな分野の指導者を特別講師に迎えて講義を行っています。10月22日(木)から3回にわたり、ご講義いただいたのは客員教授の藤村靖之先生。非電化製品について紹介しながら、熱力学や流体工学など機械工学の知識がどのように活かされているのかを説明されました。「これからは機械工学の時代。地球を救うのは機械工学だと思います。」藤村先生の力強い言葉は、学生たちの心にも響いていました。「ひとつの発想や知恵から、電気を使わなくても便利なものを作れることがわかり、ためになりました。」「地球上にやさしく、発展途上国の人々が幸せになる製品を開発したい」という意欲が湧いてきました。『ロハス工学』は機械の専門知識だけでなく、環境や他分野の専門知識を得ることができますので視野が広がります。」など、学生からの感想でした。

機械工学科では、1年次からこうしたロハスの講義を設け、未来を担うロハスエンジニアを育成します。





課外活動応援団

サークル活動や各種大会・コンペに参加し
頑張っている学生をクローズアップします。

「ジャイアントエコ」ロボットを製作



私たちロボット研究会(ロボコンチーム)は郡山市役所・超学際研究機構と共に環境ロボット「ジャイアントエコ」を作りました。そして、8月22日(土)・23日(日)福島競馬場内で行われた2009ふくしまビッグフェアの「STOP The 地球温暖化~チームマイナス6%」ブースにて、お披露目を行いました。

「ジャイアントエコ」は、全長53cm、全幅25cmのロボットです。このロボットは、空き缶をアルミ缶とステンレス缶に分別できることで大きな特徴です。また、環境保護啓発表示を胸で行い、目と口にLEDパネルを搭載し表情豊かに、地球環境保護への啓発活動を話すことができます。

まず、「この缶は、アルミ缶かな?ステンレス缶かな?」と子どもたちに質問し、実際に缶を手にとって、予想をしてもらい



ます。そして、「じゃあ、ジャイアントエコに聞いてみようか。」と空き缶をジャイアントエコの手に乗せてもらいます。缶を手に乗せるとジャイアントエコは「ありがとう」とい缶をしっかりと握ります。すると、缶を持った腕を「アルミ」「スチール」と書かれたゴミ箱の上まで運び缶を離します。ジャイアントエコの判別は百発百中。見事、空き缶を分別することができますときには、大きな歓声が起こります。

私たちはリサイクルの例として、アルミ缶は新幹線、スチール缶は車などに再利用されることを説明しながら、多くの子どもたちにごみの分別回収の意味と、地球環境保護の大切さを訴えました。

また、日本大学工学部で取り組んでいるロボット活動についてもPRすることができました。ジャイアントエコを製作するだけでなく環境保護活動へも参加できたことの意義を感じました。今後もジャイアントエコを用いて、郡山市・超学際研究機構とともに福島県内のイベントにて地球環境保護啓発活動を行っていく予定です。

ロボット研究会(ロボコンチーム)



ETロボコン2009で「エクセレントモデル」受賞!



情報工学科情報通信システム研究室のチーム「ニックニバスターZ」は、ETロボコン2009北関東地区大会に出場し、設計部門の1位「エクセレントモデル」を受賞しました。

ETロボコンは、規定のレゴブロックの車体に、UML[®]で分析・設計したソフトウェアを組み込み、決められたコースを自律走行させ速さを競う「競技部門」と、UML[®]で記述されたソフトウェアの分析、設計モデルを審査する「モデル部門」の2部門の総合で順位が決まります。今年は競技でコースアウトしたので、惜しくも全国大会出場は果たせなかったものの、「エクセレントモデル」を受賞したことで、来年へ夢がつながりました。

審査では、オリジナルの走行戦略がユニークだった点や問題と対策での補足説明が充実していて解かりやすい点、また最速で走る目標に対して、理論と実際の走行との



情報工学科情報通信システム研究室

誤差提言にフォーカスし、的確に解決しているところが評価されたようです。企業のチームが圧倒的に多いこの大会で賞を取れたことは、大きな自信になりました。実際には考えていた通りに動かなくて、難しさもありましたが、それをどう乗り越えていくかという楽しさややりがいそしてみんなで一つのものを作り上げていく大切さも学ぶことができました。来年こそは全国大会優勝をめざします！

●通常走行部門 通常のコースに対応する走行技術を担当…坂本 康友さん

●特殊走行部門 難所コースに対応する走行技術を担当

…千葉 智也さん・遠藤 崇仁さん・古川 貴さん

●ハードウェア部門

ロボットの仕組みや内部の制作…米谷 成弘さん

●モデル部門

設計図担当…青木 柔徳さん

●メカニック部門

メンテナンス担当…佐川 嘉章さん

*UML:ソフトウェア工学におけるオブジェクトモデリングのために標準化した仕様記述言語



Hondaエコノパワー燃費競技全国大会に出場!

機械工学科熱機関研究室(渡部研)

考えたものづくりをしていかなくてはならないのだと実感しました。

●チーム名 日本大学工学部 HitsSky!

大学・短大・高専・専門学校クラス(Gr.III) 109台中46位

●研究メンバー 山内 信人さん 古宇田 稔人さん 岩崎 祥史さん

酒寄 智徳さん(ドライバー) 佐藤 友哉さん 富田 光一さん

*カウル:外回りのカバー *ノッキング:異常爆発すること



『みちのくYOSAKOIまつり』で準決勝進出!!

桜家一門YOSAKORI隊

10月10日(土)・11日(日)に杜の都仙台にて「みちのくYOSAKOIまつり」が開催され、私たち桜家一門YOSAKORI隊は全国から集まるチームと共に演舞を披露してきました。

普段は福島県内を中心に、時には名古屋、静岡など幅広く活動しており、いろいろなお祭りに参加していますが、今回は仙台での演舞ということで、観客はあまり私たちを知らないばかりでした。しかし、いろいろな会場で演舞が終わるたびに歓声や拍手をいただけて、すごく

胸がいっぱいになりました。私たちの演舞を見て観客の皆さんに元気を分けられたと思うととても嬉しいです。審査

でも準決勝まで進み、福島県だけでなく仙台にも桜家の桜を咲かせてきました！観客との関わりを通して自分たちにも自信を持てました。

私たち桜家一門YOSAKORI隊は現在45人で活動していて、日本大学の象徴である桜をとって、『桜の家』と書くように、みんな家族のように楽しくワイワイ活動して一人ひとりの絆を深めています。先輩、後輩の仲がよいのですが、礼儀などもしっかりしていて、先輩からはいろいろなことを教えてもらえるので、普段の大学生活だけでは学べないことも学ぶことができます。遠征することで新たな出会いもあり、同じ「よさ」の友達も増え、より祭りが楽しくなります。

さらには、演舞や交流を通して今までできなかつた事も経験でき、大学生活の最高の思い出にもなっています。

これからも演舞を通して、会場を始め皆様の心に桜家の桜を咲かせていくたいと思います。



東北建築学生賞優秀賞受賞!!

建築学科4年 早川真介さん

につながりました。これに満足すことなく、もっと高い技術を身につけるように今後も努力を積み重ねていきたいと思います。



10月17日(土)せんだいメティアで、第13回IA東北建築学生賞の公開審査が行われ、2位にあたる優秀賞を受賞することができました。昨年は最優秀賞だったのですが、今回も賞が取れたことで、昨年がまぐれではなくかったと証明できたので本当によかったです。

今回の作品『大切な歴史を日常の風景へ—公会堂と市民プラザ—』は、歴史的価値がある建物の魅力を引き出し、日常の風景の中に大切な歴史の風景を取り戻すことをめざしました。同じ人が応募したと思われないよう、趣向を凝らし昨年とは全く違う作品に仕上げました。最終審査のプレゼンテーションも、昨年より落ち着いてきたと思います。1票差で2位という結果でしたが、自分にとっては大きな自信

硬式野球部 明治神宮野球大会 東北地区代表決定戦に出場!!



代表 木村 昇平さん(情報工学科3年)
2009年度南東北大大学野球連盟秋季リーグ戦を第2位(8勝2敗)の成績で終え、10月9日(金)からいわきグリーンスタジアムで行われた「第1回明治神宮野球大会東北地区代表決定戦」に出場しました。この大会は、11月開催の明治神宮野球大会の出場権をかけて行う大会で、昨年までは北海道・東北5連盟で1校の出場でしたが、今年から東北3連盟(東北大大学野球連盟、仙台六大学野球連盟、南東北大大学野球連盟)で1校の出場枠となりました。その記念する第1回大会に出場できたことを大変光栄に思っております。

1回戦では、東北大学野球連盟代表の八戸大学と対戦し、試合序盤に先制点、さらに追加点を挙げ、大きなリードを得る展開となり、後半はリードを守るゲームとなりましたが、徐々に詰められ、最後の最後に逆転を許し惜敗しました。その後、敗者復活戦で東日本国際大学と対戦し、接戦の末、惜しくも負けてしまいました。

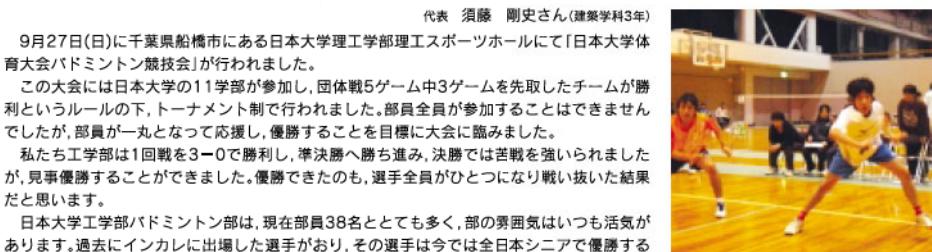
東北代表として全国大会に出場することは出来ませんでしたが、今大会に出場することで、選手は大きな自信をつけるとともに、大きな課題を得ることができます。今後の野球部にとって大きな価値のある大会となったことは間違いありません。今回の経験を無駄にすることなく来春に向けてトレーニングしていきたいと思います。

その他にも、各種大会があり、今年は吾妻杯争奪大学野球選手権大会において優勝することが出来ました。

先輩方が積み上げてきた硬式野球部の伝統を部員一人ひとりが大切にし、好きな野球ができる環境を作り、支えていただいている皆様に感謝の気持ちを持って日々精進し活動していくたいと思います。また、これからも皆様の期待に応えられるよう今まで以上に努力していきたいと思います。



ハドミントン部 みんなで勝ち取った 日本大学体育大会優勝!!



代表 須藤 剛史さん(建築学科3年)
9月27日(日)に千葉県船橋市にある日本大学理工学部理工スポーツホールにて「日本大学体育大会ハドミントン競技会」が行われました。

この大会には日本大学の11学部が参加し、団体戦5ゲーム中3ゲームを先取したチームが勝利というルールの下、トーナメント制で行われました。部員全員が参加することはできませんでしたが、部員が一丸となって応援し、優勝することを目標に大会に臨みました。

私たち工学部は1回戦を3-0で勝利し、準決勝へ勝ち進み、決勝では苦戦を強いられましたが、見事優勝することができました。優勝できたのも、選手全員がひとつになり戦い抜いた結果だと思います。

日本大学工学部ハドミントン部は、現在部員38名ととても多く、部の雰囲気はいつも活気があります。過去にインカレに出場した選手がおり、その選手は今では全日本シニアで優勝するまでとなっています。リーグ戦においては、数年前まで下位グループに位置していましたが、ここ最近はリーグ戦での昇格をめざして日々精進しており、上位に位置しています。

私たちは、レギュラーメンバーが残してくれた栄誉ある成績のため、そして応援してくれた選手たちのためにも一致団結し、これからも練習に励みたいと思います。



完全燃焼!! 体育大会

卓球部



第3位

1回戦 4-3 文理学部
2回戦 1-3 生産工学部
優秀選手 永作 翔太(電気1年)

弓道部



2回戦敗退

1回戦 3-0 仙台大
2回戦 0-3 東北学院大

バドミントン部



1回戦敗退
1回戦 58-93 理工学部
1回戦敗退
1回戦 59-65 秋田県立大

軟式野球部



優勝

1回戦 3-0 生物資源科学部
準決勝 3-0 文理学部
決 勝 3-2 理工学部
最優秀選手 藤原 佑一朗(土木4年)

3回戦敗退

2回戦 3-0 北里大
3回戦 0-3 仙台大

1回戦敗退
1回戦 2-3 法学部
1回戦敗退
1回戦 4-5 宮城大

剣道部



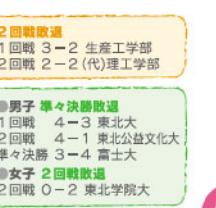
総合 第8位

●男子50m自由形 第5位 須田 祐輝(電気1年)
●男子200m自由形 第7位 伊藤 級(情報1年)
●男子800mリレー 第6位 (菅野, 山本, 須田, 真船)
●男子400mメドレーリレー 第4位 (真船, 田中, 伊藤)
●男子400mリレー 第7位 (菅野, 山本, 真船, 須田)

柔道部



バレーボール部



1回戦敗退
1回戦 0-2 東北学院大

空手道部



●男子団体組手 1回戦敗退
●男子個人組手 3回戦敗退
根本 浩司(情報3年)
●男子組手個人 1回戦敗退
伊藤 大(土木4年)
永澤 嘉浩(物質3年)
●男子形個人 1回戦敗退
喜久里 達也(機械1年)
永澤 邦浩(物質3年)

ソフトテニス部



2回戦敗退
1回戦 4-1 法学部
2回戦 2-3 國際関係学部

●陸上競技部 台風のため中止
●サッカー部 インフルエンザのため不参加
●バレーボール部 台風のため中止
●スキー部 平成22年2月28日~3月4日に日本大学体育大会開催

●陸上競技部 定期試験のため棄権
●サッカー部 別大会と重複したため棄権

スキルアップ リポート

工学部では、資格試験対策講座や幅広い教養、語学力を身につけるための講座、また、国際感覚を養うための海外研修など、学生のスキルアップにつながるさまざまなプログラムを用意しています。ここでは実際にプログラムを体験した学生の声をお届けします。



英単語コンテストにチャレンジ!

9月18日(金)、総合教育の英語研究室主催による「英単語コンテスト(1年次生対象)」が行われました。優秀者には、賞状と賞品が贈られるということもあり、多くの1年次生たちが果敢に挑戦! コンテストには191人の学生が集まりました。LAN接続したコンピュータ上で自習できる英語学習ソフトから出題されるということで、夏休みを使って勉強した学生もいたようです。コンテスト終了後、学生に話を聞いてみました。「中学から勉強している英語が、実際どれくらい身についているのか、自分の力を知りたいと思い参加しました。」「英語学習ソフトも操作しやすく、見て聞いて覚えられるので、毎日地道に少しずつやってみました。」「自分を磨くことは大事だし励みになります。」「英語は必ず役に立つので、勉強することは大切だと思います。国際エンジニアには必要な項目。将来につなげていきたいですね。」などのコメントがあり、英単語コンテストは好評のようでした。



10月22日(木)には、成績優秀者18名(出席者15名)に対して表彰が行われました。優秀賞に輝いた機械工学科の鶴田景さんは「英語は得意ではありませんが、受けでみようかな程度の気軽な気持ちで臨みました。英語学習ソフトがわかりやすかつたので自然と身についたのかもしれません。英語に自信が持てました。将来は話せるようになりたいと思います。」と語っていました。

*成績優秀者については、工学部ホームページ「工学部広報PLUS」をご覧ください。

教員採用試験準備講座を受講してみて

機械工学科4年 齋藤 雅夫さん



私は大学入学前から、教員になりたいと考えていました。2年生になり教職課程を履修していく中で、総合教育の中津山先生が週1コマ課外講座を開講していることを知り、将来の教員採用試験に備えるため、2年生から受講を始めました。

課外講座では、出身県の採用試験の傾向を調べ、どの範囲を重点的に勉強すればいいのか、採用試験の情報、就職活動の進め方などを、様々なことを指導してもらいました。私は2年、3年と課外講座を受講し、大学4年生で採用試験を受けました。結果は不合格となってしまいましたが、成績開示を行い詳しい結果を見てみると、課外講座で勉強してきた教職教養の範囲は「A」判定と、判定の中で一番良い評価を得ることができました。現在は常勤講師に就くために私学適性検査などの試験を受けています。課外講座を受講していく中で学んだ様々な事を生かし、一年でも早く正式な教員として採用されるよう努力していきたいと思っています。



合格に有利な公務員試験対策講座

建築学専攻2年 及川 美帆さん



公務員をめざしたのは、公共施設事業に興味があり、その計画に携わりたいと思ったことがきっかけでした。公務員試験をめざすとなると準備期間も長く、やる気を失うこともあります。そこで、学内で開講されている公務員試験対策講座を受講しました。教養科目を中心に、学科試験対策や論文対策、一人ではできない集団討論や面接対策などを学ぶことができ、とても役に立ちました。講座を受けることで定期的に勉強する姿勢が身に付いたことや、同じ目的を持つ友人ができることが良かったと思います。その結果、福島県庁の試験に合格。将来は、大学で取り組んだ「防犯」に関する研究の知識を活かし、住みやすい街づくりを提案したいと考えています。公務員をめざすために一番大切なことは、最後まで諦めないことです。たとえ、面接や論文が得意だとしても、1次試験を通過できなければ意味がありません。まずは、講座を利用するなどして、1次試験の学科試験対策を重点的に取り組むことが、公務員試験合格への第一歩になるでしょう。



ケンブリッジ大学 サマースクールに参加して

物質化学工学科3年 岡田 雄慈さん

私がケンブリッジ大学で受けた授業は語学と科学の授業でした。

語学の授業では難しい文章を読んだりするのではなく、基本的な文法を使った文章を題材に声に出して読んだり、自分の思ったことなどを簡単な文章で書いたりしました。現地の人でなければ気がつかない文法のミス、発音の違いを教えてもらいました。科学の授業では、大学内にある博物館の資料を見ながらの授業やDNA分析の簡単な実験、夜には天体観測所に行き天体観測などを行いました。どちらの授業も英語のみでしたが、講師の先生はゆっくり丁寧に授業を進めていて、私たち研修生が聞き取れなかつた時は何度も繰り返し教えてくれたので、楽しく受講することができました。

勉強以外にも現地の学生が様々なイベントを企画してくれて、一ヵ月があつという間だったと思えるほど充実した生活を過ごせました。できればもう一度参加してケンブリッジに行ってみたいです。



物質化学工学科3年 佐藤 洋一さん

私が今回のサマースクールに参加するきっかけは、海外に行ってみたい、日本を離れて様々な文化に触れてみたい、という思いはもちろんのこと、普段勉強している英語は本当に通じるのだろうか、あるいは実際に役に立つのであろうかという疑問を抱いており、海外で生活してみたいと思ったからです。

このプログラムを通じて、外国人とのコミュニケーションをとったり、イギリスの文化を勉強したり、本場のサッカーの試合を観ることができます。本当に一生の思い出となりました。百聞は一見に如かずといいますが、日本とは違う文化に実際に触れたことで、今までにない満足感を味わうことができました。また、物事に対する考え方や視野が広がったのではないかと思います。言葉ではうまく言い表せないほど充実した毎日を送ることができ、良い経験になりました。皆さんも留学する機会があれば、ぜひお勧めします。悔いの残らない充実した大学生活を送りましょう。



課外英会話講座スキルアップサポート

機械工学科4年 永澤 和憲さん



課外英会話講座では、1回40分のレッスンを年間100回受講することができます。通常レッスンの他にEC(English Challenge)という講師の先生と自由に会話できるクラスも設置されています。また、TOEIC IPテストを年間2回受験できるので就職活動や進学の準備をることができます。

私は大学1年から今まで(約3年半)講座を受講しています。最初は講師の先生が何を言っているのか理解することができず、恥ずかしさと歯がゆさが混じった毎日を過ごしていました。そんな中、大学1年生のときにイギリスの大学のサマースクールに参加した友だちをはじめ、大学4年生のときにアメリカの語学学校に行った先輩、大学院生のときに1年間アメリカの大学で研究してきた先輩たちと出会いました。彼らの話がとても刺激的だったので講座以外でも熱心に英語の勉強を続けることができました。今では研究室の留学生と英語でコミュニケーションができるようになりました。1年生のときから継続受講していて良かったと実感しています。また、TOEICの点数が1年生のときは245点でしたが、4年生では775点になりました。TOEICの点数が英語力を示しているとは考えていませんが、一つの指標として就職活動や進学に利用できるのではないかと考えています。



サクセス最前線

早めのスタートで、自分の夢をつかもう!

3年次生や大学院1年次生にとって、いよいよ自分の進路に向かって、本格的な活動を始める時期です。最大の決め手は、何といっても早めのスタート。今回は工学部の就職支援の特徴や、夢をつかんだ先輩たちの声、社会で活躍している卒業生のメッセージなど、就職や進学を決めるうえで役立つポイントをまとめてみました。1・2年次生の皆さんもぜひ参考にしてください。

自分の進路に合わせて、工学部の就職支援を活用しよう!!

ガイダンス

■キャリア研究講座

早い段階から自分でキャリアプランニングができるように、1年次生を対象として年4回開催しています。学生一人ひとりの主体的な職業選択能力や、職業に対する意識の向上をめざしています。

■就職ガイダンス

本格的な就職活動がスタートする前に、3年次生を対象として年6回開催しています。毎回テーマに合わせて就職コンサルタントを招き、就職活動の進め方をはじめ、自己分析や企業研究、面接対策など、具体的に指導していきます。

- 内 容:①就職活動の進め方 ②自己分析講座
③企業研究講座 ④エントリーシート作成講座
⑤面接対策講座 ⑥女子学生向け講座

■インターンシップガイダンス

会社での仕事を学ぶ絶好の機会として、毎年多くの学生が参加しているインターンシップ。事前の準備から体験者の報告会まで、3年次生を対象に開催します。

- 内 容:①参加申込み前の心構えについて
②事前指導及びビジネスマナーについて
③インターンシップ体験者報告会

工学部就職セミナー

工学部独自の就職プログラムの一つとして、安心して学生に紹介できる一流企業や上場企業などの採用担当者をキャンパスに迎え、企業ごとに学生と面談してもらいます。平成21年度は全国から延べ600社あまりが集まり、延べ3,000名を超える学生が参加しました。学内にいながら多数の企業の採用担当者と直接面談でき、内定に結びつくチャンスになります。

業界別セミナー

学科の枠にとらわれることなく、いろいろな分野の企業の方々を招いてお話を伺う「業界別セミナー」や、内定が決まった学生による「就職活動体験発表会」などを開催しています。

企業就職試験対策

企業就職試験対策は、早めに体験して準備することが大切です。工学部では、企業で行われているいろいろな種類の試験を体験できるようにしています。

- 試験の種類:①自己分析テスト(R-CAP)②SPI対策講座
③適職診断NAAPIテスト④自己表現テスト⑤エントリー試験
⑥就職常識試験⑦日本語能力試験
⑧クレベリン検査⑨実践模擬面接
⑩TOEIC IPテスト
※SPI対策講座の費用は大学が負担します。



公務員試験対策

■公務員ガイダンス・合格者体験発表会

公務員を志望する学生のために、「公務員ガイダンス」を年3回実施し、合格へのノウハウや勉強方法などを具体的に指導しています。また、公務員試験の合格者に自分の学習法や留意点などを発表してもらう「合格者体験発表会」も開催しています。

■公務員試験対策講座

公務員をめざす学生を対象として、延べ60日間の対策講座を開講しています。教材以外の費用については大学が負担します。

- ◇1・2年次生:基礎コース
- ◇3年次生:実践コース①~③、夏期特別集中講座、春期特別集中講座
- ◇4年次生:直前完成コース

■公務員試験模試

本番の試験と同一の形式で、4月・5月・11月・2月の年4回にわたり模擬試験を実施して、自分の実力を把握するとともに、解答の順番や時間配分など上手い解答の進め方も身につけられるようにしています。

教員採用試験対策

教員をめざす学生を対象として、教員免許の取得指導をはじめ、「教職課程就職セミナー」や「教職課程就職活動体験発表会」などを開催しています。

課外英会話講座

最近はTOEICの点数をエントリーシートに記載させる企業が増えました。より実践的な英語力とコミュニケーション力を身につけるため、授業の空き時間に学内で受講できるネイティブスピーカーによる英会話講座(年間100回)を開講しています。

CS Navi

インターネットに接続できるパソコンがあれば、在学生なら誰でもどこにいても就職に必要な情報が得られるCS Navi(Career & Skill up Navigation System)。企業の求人情報や公務員・教員の採用情報、就職活動のノウハウなどを入手して、早くから就職活動の準備を始めることができます。

■就職求人情報閲覧・検索システム

約200,000社の企業情報の検索や、約10,800社の求人情報、さらには公務員・教員の採用情報の中から自分の求める情報を閲覧することができます。

■就職求人情報配信システム

工学部で受付をした求人情報や採用情報を大学の個人ホームページに毎日配信するシステム。その日に届いた最新の求人情報やお知らせを個人の携帯電話やパソコンで受け取ることができます。

■就職関連情報

就職活動のマニュアルや手続をはじめ、就職支援行事の詳細や、国家・地方公務員試験過去問題とその解答解説など、さまざまな情報をタイムリーに配信しています。

就職指導課情報閲覧室

就職活動の拠点として、約10,000社の企業情報ファイルが閲覧できるほか、パソコンで企業情報や求人情報などが検索できます。また、専門スタッフからエントリーシートや履歴書の添削指導、就職相談なども受けることができます。



工学部就職セミナー

平成23年4月に採用を予定している企業(約600社)が、工学部のキャンパス内に一堂に会します。工学部の学生に対して採用意欲のある企業ばかりなので、内定へと結びつける大きなチャンスです。

◇日 時／1日目：平成22年2月 9日(火)

2日目：〃 12日(金)

3日目：〃 13日(土)

◇会 場／70号館特設会場

*企業の担当者と個別に面談を行いますので、リクルートスーツを着用し、頭髪や身だしなみには気をつけてください。

*当日は1社につき1部のプロフィールシートが必要です。必要な方は就職指導課まで申し出てください。

*採用企業等、詳細については別途CS Naviや学内の掲示でお知らせします。



厳しい就職状況を乗り切ろう! 就活6つのポイント!!

★何といっても早めのスタートが肝心。「志(何をして社会に貢献するか)」を見つけて、早めに動き出しましょう。製造業は、求人の時期が早く期間が短いので注意が必要です。

★就職活動は決して一人ではないこと。何社も受けて経験を積んでいる時間はありません。必ず研究室の先生や就職指導課のスタッフ、各学科の就職指導委員の先生方に相談して進めてください。インターネットだけに頼るのも禁物です。

★工学部就職セミナーを有効に活用すること。工学部の学生を採用しようと考えている企業が参加するため、直接、採用担当者の話を聞き、内定をもらう絶好のチャンスです。

★推薦が得られることは工学部学生の大きなメリットの一つ、自分の志望する企業とマッチングすれば、採用される確率はぐんと高まります。

★SPI試験の練習は、やればやるほど効果が表れます。SPI対策講座は無料(大学が負担)なので、ぜひ有効に活用しましょう。

★チャレンジ精神を大切に、いろいろな経験をすること。企業によっては、成績よりも「やる気」を見てきます。仲間と協力して、一つのことに挑戦する姿勢も大事です。

就職活動の相談先

- 就職指導課(54号館2階)
- 各学科の就職指導委員の先生

夢をつかんだ先輩たちの声

公務員試験対策講座やCSNaviの過去問をフル活用。

公務員になろうと思ったのは、地元・福島の活性化に貢献したかったからです。3年の夏休みに市役所でインターンシップを経験できたおかげで、自分の決意はさらに固りました。

公務員試験で合格するためには、早めの準備が大切です。CSNaviの過去問には、工学部の先生方の解説が載っているので、とても役立ちました。工学部独自の公務員試験対策講座の中で、特にすごいのが二次試験対策です。なかでも模擬集団討論は、ふだん練習する機会がないので大助かりでした。また、個別に模擬面接をもらつたところ、先生方から聞かれた質問の内容が、そつくりそのまま実際の面接で出たにはビックリしていました。

公務員は内定が決まるのが遅いので、精神的に焦りを覚えることもありますが、絶対に公務員になるんだという強い気持ちを持つて頑張り抜いてください。



有我 浩貴さん
土木工学科4年
福島県方に内定。地域の人々に喜ばれ、県の活性化につながる仕事がしたい。福島県出身。

「絶対に入つてみせる」という熱い想いが決め手に。

企業の説明会で「構造設計の分

野は大学院修了者しか採用しないので難しい」と言われたことが開

志に火をつけ、「必ずこの会社に入つてみせる」と思うようになりました。

いざ就職活動がスタートすると、試験勉強に費やす時間がなくなつてしまつて、とにかく早めの準備が大切です。僕の場合、早い段階からS P I のトレーニングを積んでいたので、余裕を持って臨むことができました。

工学部では、他にも自己分析や自己表現、日本語能力など、各種試験対策が充実しているので、どんどん早めに活用してほしいですね。本命の企業を受ける前に、面接の練習のつもりで、あちこちの会社を受けてみたことも自信につながりました。

リクルーターを含め、多くの卒業生がいることは工学部の大きな強み。ぜひそのネットワークを活かしながら、一生に一度の貴重な経験である就職活動に体当たりで臨んでください。



平田 康太さん
機械工学科4年
株式会社建設機械会社に内定。
第一人前になり、仕事を通じて活動を möchtenたい。福島県出身。

押しの一手で、自分の意志を貫こう。

多くの人の役に立つ機械をつくっている企業だったことが、志望の決め手につながりました。

企業の説明会では、周りが頭の良い人たばかりに見えて、雰囲気に呑まれそうになったこともあります。決して負けではないません。面接では企業の重役が出てくることもあります。自分に自信を持ち、自分の意志を押し通すぐらいの気持ちで臨んでほしいと思います。企業の採用枠が減っている状況下で就職戦線を勝ち抜くためには、試験の点数だけでなく、押しの一手大事です。

まずはいろいろな企業を見てまわって、自分が興味を持った会社のことをよく知り、どうしてそこに入りたいのか、自分自身の動機を固めることから始めてください。S P I や適性検査も鍵を握ってくるので、早めに準備しておくことですね。



若林 裕泰さん
機械工学科4年
株式会社小糸製作所に内定。今まで初心を忘れない、お客様の役に立つ。福島県出身。

社会で活躍する女性たちの声

自分を信じて努力をすれば、必ず道は拓ける。

郡山市役所勤務

自分が希望する企業では、技術職の募集が極端に少なかったので、工学部で学んできたことを活かすために、公務員の技術職という道に進みました。市役所に勤務して11年。今は道路建設課で補助金交付事業の審査や国・県からの照会文の取りまとめなど、総括的な業務に携わっています。

土木工学科を選んだのは、自宅から通えて、生産的な仕事につながる勉強ができると思ったからです。高校が普通科だったので、どの授業も新鮮でおもしろかったのを覚えています。公務員試験対策講座では、自分の「やる気」をさらに引き出すことができました。

女性が社会で活躍するうえでは、女性ならではの直感や感性が大切だと思います。男性とは体力的に差があるので、まったく同じといふわけにはいきませんが、自分にできることは真摯に取り組み、常にベストを尽くすことが必要です。とりわけ土木の世界で、女性は貴重な存在なので、自分の個性にさらに磨きをかけてほしいですね。

厳しい就職状況が続いているが、自分を信じて努力を続ければ、必ず道は拓けます。一つひとつの知識を貪欲に吸収して頑張り抜いてください。



柳沼 優子さん
土木工学科卒業

女性だからできることにトライ。

積水ハウス株式会社勤務

住宅の設計がしたくて、ハウスメーカーを中心に就活をしていたところ、女性にも技術職のチャンスがあることを知り、現在の会社を希望しました。今は戸建住宅やアパートの設計業務に携わっています。自分が描いた因面通りの建物が、実際にカタチになっていくのは感動的です。「こんな家に住みたい」というお客様の夢を叶えられるのは、大きな喜びであります。

建築は高校時代から勉強していて、将来は設計士になるための専門的な知識や技術を身につけたいと思い、建築学科を選びました。在学中はいろいろな人と出会い、一緒に学ぶことで、自分の考え方や知識の幅が広がりました。私にとっては、教職課程を修めたことも自信の一つ。また、一级建築士の資格を取ることは、学生時代からの目標もあったので、社会人になった今も休日を利用して学校に通っています。

最近は出産や育児に対して支援する企業も増えてきました。今は女性もどんどん社会の中で活躍する時代です。男性に負けないくらい頑張るよりは、女性だからできること、気がつくことにトライして、自分の可能性を広げてください。



田口 真美さん
建築学科卒業

自動車業界で活かせる女性の視点。

株式会社本田技術研究所勤務

高校の頃から自動車業界で働きたいという思い入れがあり、なかでもHONDAの企業理念に惹かれたことが、現在の会社を希望する決め手になりました。今は研修期間ですが、毎日必ず新しい発見があり、とてもやり甲斐を感じています。

機械工学科を選んだのは、カリキュラムに魅力を感じたからです。基礎から始まって、製図や実習、実習など、さまざまな知識を身につけることができました。就活では、就職指導課の方にエントリーシートを何度も添削してもらったり、かなり突っ込んだアドバイスをもらつたおかげで、落ち穂じて面接に臨みました。多くの卒業生の話が聞けるのは、工学部の大きな強み。自分のイメージで会社を判断せず、いろいろな人の話を聞くことは大切だと思います。

私は、福祉車両をもっと一般的なものにし、本当に必要している人のために役立ちたいという夢があります。自分のやりたいことが明确であれば、男性も女性も関係ありません。特に自動車業界では女性の意見が求められているので、これからもチャレンジ精神を大切に、女性ならではの感性を活かしていくんですね。やるかやらないかは自分次第です。自分のカラーを出せば、きっとうまくいくと信じて、皆さんも頑張ってください。



小泉 麻依さん
機械工学科卒業

さらに研究を深めて、自分の可能性を広げたい。

4年間で卒業するよりも大学院へ進んだ方が、研究職につける可能性がぐんと広がると思い、進学を決意しました。物理化学系統の研究室を選んだのは、将来自分が進みたい道だったからです。大学院へ進学してからのことだけではなく、さらにその先、自分の未来形を描きながら、進路を決定するのがベストだと思います。

企業への就職だけでなく、教員になることも選択肢の一つとして考え、教職課程もとりました。工学部ならF E 試験にチャレンジできる環境も整っています。工学全般について学びながら、自分の強力な武器をつくるきっかけだと思い、僕も受験しました。

物質化学工学科は、2010年度から生命応用化学科に変わります。化学の分野の活躍の場がさらに広がりうるので、自分自身の研究の幅も、もっと広げていきたいですね。



大越 雄太さん
物質化学工学科4年
日本大谷大学院に進学。自分の研究室で研究活動をする。仕事に誇りを持てるようになりたい。福島県出身。

ワンランク上の企業がめざせるのは、大学院の強み。

大学院の場合、就職に向けて十分な準備ができるのは大きいと思います。研究室の先生ともじっくり時間をかけて相談できるし、自分が希望する分野の中でも、ワンランク上の企業をめざすことができます。

工学部就職セミナーは、ぜひ活用したい就職支援の一つです。学内にいながら、一流企業や上場企業の担当者と会えるので、新幹線や高速バスなどの交通費もかかりません。また、卒業生が多く、リクルーターとして来てくれる先輩が多いことも、工学部の大きなメリットです。かなり突っ込んだ相談にも乗ってくれるので、うまく活用したいですね。

就職活動をするうえでは「自分の目標を持つこと。目標に向かって早めに動くこと。自分で抱え込まずに、まずは先生に相談すること」——この3つがポイントだと思います。



飯高 智美さん
情報工学科卒業

何ごとも挑戦する姿勢を大切に。

日本電気株式会社勤務

I T を軸にしながら、「安心・安全・便利」な社会づくりに貢献できる仕事につくのが夢でした。自分の念願が叶つて、今は病院の業務を支えるシステムの構築に携わっています。具体的には自治体病院の電子カルテシステムの運用検討を担当するのが私の役目です。

システムの導入が無事完了したときは、職場の仲間と達成感を共有しています。

情報工学科を選んだのは、もともとI T 関連に興味があり、就職にも有利だと思ったからです。私のような文系高校出身者でも、基礎から幅広く学べるのは、工学部の魅力の一つ。わからないところは、T A の皆さんに親身になって教えてくれました。工学部なら卒業生が多いので、就職やインターンシップに関する情報も充実しています。学科推薦が充実していることも、大きなメリットだと思います。

女性が社会で活躍するためには、何ごとも挑戦する姿勢が大切です。工学部の場合は、目的意識がはっきりしている学生が多いので、きっと有意義な学生生活が送れるはず。友だちや先輩など、人とのつながりを大切にしながら、幅広い知識を身につけ、自分の感性にますます磨きをかけてほしいですね。

*TA:工学部の実習授業の指導補助業務等にあたるティーチング・アシスタントのこと。

環境が人を育てる

福島県が本年度創設した「大学等の知の活用による地域支援事業」に、建築学科 専任講師 市岡綾子先生が提案した研究テーマ『ヘリテージマップ作成による街資源の活用』が採択されました。須賀川市内の建物や風景など、さまざまな地域遺産を再発見し、歴史入りの地図を作製するとともに、地図を活用したイベントを通してまちの活性化を目指すというもののです。

現在、地元の市民グループ、他大学の研究室と連携を図りながら、協同で取り組んでいます。その活動や市岡先生の研究から見えてくる“環境”的大切さを探ってみました。



まちの魅力を知ることが、再興の第一歩



毎日見慣れている街並みも、じっくり観察してみると、今まで気づかなかったことや知らなかった言い伝えがあることがわかります。10月17日(土)・18日(日)の2日間にわたり、美しい景観や蓄積された歴史、名人、知恵、人情、人々の暮らしなど、自分たちが住んでいるまちにはどんな魅力があるのか、大人と子どもが一緒に見つけ出そうというイベント「私たちの須賀川見つけ隊・親子版」が開催されました。このイベントにお手伝いとして参加したのが、建築学科住環境計画研究室のみなさんです。

「建築をデザイン計画するために役立つ重要な情報は、実際のフィールドにあります。まずは、興味を持った様々なフィールドに出て、人々を取り巻く空間や環境と生活行動の関わりを、自分たちの目で確か



めることから研究を始めています。」市岡先生はフィールド調査から得られた情報をもとに、居心地のよい空間・環境づくりについて研究を進めているのです。

子どもの遊びを通して、まちを考える

「須賀川は、かつて中央と直結していたことで発展し、栄えていました。そうした直結できるパワーを持つことが、まちの活性化につながると思います。」市岡先生は、單なる城下町ではなく、活気にあふれていた昔の須賀川を調べて伝えていくことで、その先にある復興・再生への足掛かりにしようと考えています。まちの歴史は、いわば人の歴史。人のエネルギーが、まちを活性化していくような気がします。

須賀川の歴史をひも解きながら、まちを探索していると、公園で夢中になって穴を掘って遊んでいる子どもたちに遭遇しました。温泉を作っているのだという子どもたちは、与えられた道具ではなく、自分たちが考えた遊びで、楽しさややりがいを見出しています。そばで見ているお母さんも、小さい頃、この公園で遊んでいたそうです。「私が小学生の頃と遊具も何も変わってないんですよ。」須賀川で育った学部4年生の白澤奈緒子さんも、この公園でよく遊んでいたと言います。日当たりもよく、自転車で走り回れるほど広い公園は、今では珍しいかもしれません。

「粘土も取れるんだよ。」と子どもたちが教えてくれました。天然の



粘土。自然の中には、子どもたちにとって格好のおもちゃが隠れています。ゲーム機という大人が造り出した現代のおもちゃでも、粘土という昔からの遊び道具も、今なお生き続けているのです。「世代を超えて受け継がれていく遊びには大きな意味があります。」東京大学大学院で建築学を学んでいた市岡先生は、当時、文京区根津を調査対象として、子どもの遊びからみた地域環境について研究を行ったそうです。その後も、地域における子どもの遊び環境に着目し、研究を進めてきました。



「安全性が優先されて遊び場が少なくなってきた中で、どういう遊び場をつくるかが課題。」そう語るのは、学部4年生の高山純耶さん。「大人にはどうでもいいようなことを、子どもはするほどキャッチしてすごいなと思いました。大人と子どもの目線を合わせることが大切だと学びましたね。」須賀川の子どもの遊び場について研究している高山さんにとって、子どもの目線に近づけたこのイベントは大きな収穫になりました。参加した子どもたちも、「須賀川はあまり有名じゃないけど、宝物がいっぱいあった!」「須賀川のまちを知ることができてよかった!」とまちの魅力に触れたとともに、自分の住むまちを大切に思う心も芽生えたようでした。大人と子どもが共ができる環境を形成することも、地域にとって大切なことなのです。

子どもの環境行動から見えてくる

住環境計画研究室では、住宅地や学校空間を対象として、成長に応じてみられる行動や心理面の分析を通じて、子どもの生活行動と空間、環境の関わりについても研究しています。

10月30日(金)、この日は猪苗代町立線小学校にご協力いただき、子どもの行動調査を行いました。6人が各学年を担当し1日の動きを追い、1人はフリーで全体を見て回りました。「人間の成長にとって、建築の与える影響は大きいと思います。」小学校のオープンスペースを研究テーマにしている大学院2年生の三浦泉さん。4年生の時から研究を続け、成長する子どもを見ながら、建築と人の生き方の関連性を感じ取っていました。平成18年に建てられた木造校舎は、ゆとり教育を重視したオープンスペースを持つのが大きな特徴。しかし、ゆとり教育が見直されていく中で、オープンスペースの意義も薄れつつあるのが現状です。教室ごとに仕切りがないため、隣の



声や音が聞こえて、特に低学年は落ち着きがなくなり困るという先生の声も聞かれます。「オープンスペースがある教室で、子どもたちがどのように行動しているかを調べることで、オープン

スペースの有効性を提案したいと思っています。」壁を設けて以前のように戻るのではなく、よいところを残しつつ発展することが大事だと、三浦さんは考えています。コンクリートの壁で囲まれた箱の

ような教室ではなく、木のぬぐもりと太陽の明るさと寝ころべるような自由な空間が子どもたちを伸び伸びと成長させてくれるはず。学部4年生の添田歩美さんも「子どもたちの自主性が養われるようになります。壁がないから自分で判断して行動しているのだと思う。また、仕切りがないことで、学年の垣根なく絆も深まっているようです。」建築物は人を守る器であると同時に、人を育てる器もあります。まちも同じです。まちづくりは人づくり。そのことを市岡先生は、研究を通して伝えようとしているのです。

自然と人が共生する環境

須賀川のまちを探検していた時のことです。「この蟻たちはどこへ行くのだろう。」まるで子どものように、蟻の行動に興味津々の市岡先生。「郡山に来てから変わったんですよ。東京にいる頃には、目に留めることもなかった風景に、心を動かされることがあります。」市岡先生がふと漏らしたその言葉に、大切なものを感じました。市岡先生は日本大学工学部に着任当初、「スピード感のある雲が風にのって流れる郡山の広い空の下で、これから皆様と共に楽しく学びたい」と決意を語っていました。まさに、コンクリートジャングルと言われる都会からは想像もできない、この広い郡山の空の下には、人間だけではなく、さまざまな生物が生きていることを実感させてくれます。そこから、環境を大事にしたいと思う心も生まれるのでした。

豊かな自然と温かな人間に囲まれた郡山にある日本大学工学部だからこそ、本物の「ロハス」をめざすことができるのだと確信できました。自然と共生できる環境・人との関わりを大切にする環境・古きを知り新しきを創る環境がある工学部は、これからも未来を創るロハスエンジニアを育てる大学として、地域社会・地球環境に貢献していきます。



